

学校教育目標
自ら伸びる ともに伸びる

めざす子ども像

主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒

研究主題

主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒の育成
～授業や生活における居場所づくりを通して～

研究仮説
児童生徒一人一人の実態に応じた授業及び生活における「居場所」づくりを行えば、主体的に関わり合って伸び合おうとする児童生徒の育成につながるであろう。

授業における居場所づくり

- ①「分かった」「できた」を実感させるための取組の重点
 - ア 導入で児童生徒の「なぜ?なぜ?」を引き出す。
 - イ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の相互作用により学びを深める。→より深い自己選択・自己決定につなげる。
 - ウ 必要感のある「対話」、効果のある「ICT活用」の場を設定する。
 - エ 「発展的振り返り」により、授業と家庭学習を線でつなぐ。

生活における居場所づくり

- ①登校していない実態に応じた居場所づくり（本音で話せる・興味関心に沿うために）
- ②登校しているが、教室に行けない実態の応じた居場所づくり（よき理解者の存在・「やってみよう」を引き出す）→SSR・「かがやきルーム」の充実
- ③教室に在るが、教室が居場所とは感じていない実態に応じた居場所づくり

授業改善・生活の場の工夫による居場所づくり

